

「広く、深く、遠く」への想い

取締役最高投資責任者 (CIO) 兼 運用調査部長を拝命しました黒島光昭と申します。ファンド仲間の皆さまと再び航海を共にできますこと、誠に光栄に存じます。

私は14年前 (2008年) に弊社に入社し、研修後、運用調査部に配属されました。当時の部長が澤上龍、CIOが澤上篤人で、長期投資哲学について徹底的に指導を受けました。元研究者の私のもの見方と「推と論」「広く、深く、遠く」の思考方法をどう融合させるのか? 金融業界の経験のない私を拾ってくれたばかりか、畑違いのアイデアに対して興味をもって真剣に耳を傾けてくれました。多様な得意分野を持つ仲間のアイデアを尊重し面白がること、そんなみずみずしい頭からしか突き抜けた投資のアイデアは生まれにくいこと、これは創業当初から築き上げられた弊社の文化です。

その頃、澤上篤人とあるテーマで雑談しました。「デジタルがどんどん進む未来に、入口のアナログ技術は一体どうなるだろう?」「足許をすくう洗練されたローテクがあるのではないか?」という禅問答でした。あちこちに問答が飛んだあと、「黒島、農学博士だったよな? 膠 (ニカワ) はさ、なんでくつつくの? なんであんな長持ちするの? 昔の人はすごいもの見つけたもんだよな。なんか気になるから、何年かしつこく見といてよ。面白いことがあったら教えてくれよな」「また、えらい渋いところに目をつけますねー。こてこてのアナログ技術だし」と。

あれから10年、私は先月までとある国立研究所にて国内外でトップ集団を走る研究者たちと働いていました。私は研究者と民間企業の連携を企画提案し、事業化を推進するコーディネータでした。そこで、日本が接着分野の基礎研究で世界をリードしていることを知りました。なぜ? ある研究者によると「んー、いろいろありますけど、法隆寺の時代からニカワを使ってきたのが日本文化ですから」「ニカワ? そう言えば、ニカワが気になるっていう投資家がいるんですよ」

「地味な分野ですけど、注目していただけると嬉しいですな」接着の匠の職人芸のメカニズムは解明が難しい、それは接着現象の可視化が難しいからです。見えないものは解析できませんので。ところが昨今の飛躍的な顕微鏡技術や画像データの高速処理技術の発達で、接着の界面の構造が分子・原子レベルで見える化されました。そして接着研究者の本領がじわじわ発揮されています。これぞ時の審判です。

彼ら接着研究者の頭の中には、乗り物や橋梁などの溶接やボルト留めが〇〇年後ぐらいに接着剤に置き換わる未来像が浮かんでいます。周辺テーマも興味深いものばかりです。「寿命予測技術」「非破壊・非接触検査技術」「異種材料接合」「国際標準化・規格化」等々。

私の予感ですが、上記のアナログデータ群は、サーキュラーエコノミー時代の要になります。デジタル製品パスポートを活用したりサイクル流通の品質管理の科学的根拠になります。デジタルが進めば進むほど、そのデータはブロックチェーンを通じて商流関係者・消費者に公平に見える化され、品質保証や商品・サービスへの共感といった付加価値を生み出します。ニカワの知恵が科学的に解明され、DXで世界に羽ばたくかもしれません。痛快です。国際競争力の低下? 冗談じゃありません。現場の研究者は、虎視眈々といぶし銀の渋い技術を科学的に磨きこんでいます。彼らの全力疾走の美しさを私が翻訳して伝えさせていただきます。

今後も長期投資の「広く、深く、遠く」のワクワク感を皆さまと共有しながら突き進んで参ります。「推と論」を駆使して、ファンド仲間の皆さま、企業、弊社との三人四脚の夢と希望の詰まったさわかみファンドを大切に育てて参ります。ご一緒にさわかみファンドの歴史を描けることに心震わせています。引き続き宜しく願い申し上げます。

黒島 光昭